

同じ意味のカードはどれ？

単 元	正の数・負の数	対象学年	1 年
ね ら い	互いに反対の性質をもつと考えられる量について，正の数・負の数を使って表すことができるようにする。		

1 準備するもの

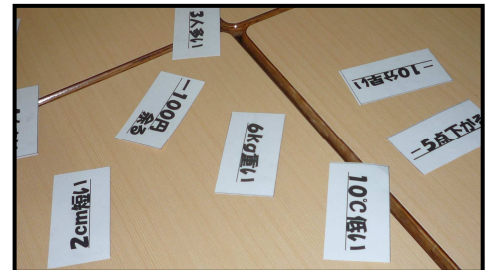
教師：カード（グループの数）

2 学習のしかた

(1) 3～5人のグループをつくる。

(2) ゲームの進め方を知る

- ①机にカードを並べる。カードは表向きに置く。
- ②教師が問題を読み上げる。(例：「5 kg 重い」)
- ③生徒は読み上げられた問題と違う言葉で同じ意味になるカードをとる。(例：「- 5 kg 軽い」)
- ④カードがなくなるまで①から③を繰り返す。
- ⑤とったカードの枚数を確認し，1番枚数の多かった人が勝ち。
- ⑥お手付きは1回休み。



3 学習上の留意点

- ・ルールや手順を丁寧に説明してから，ゲームを開始する。
- ・定着を図るために，答えを全体で声に出して確認をする。
- ・カードのはじめの数字や単位だけで判断しないように，数値をそろえておくとよい。
- ・問題を読み上げる時に「5・・・kg 重い」など，出題の仕方を工夫するとよい。
- ・正負の数の計算につながるように，単位のない問題もまとめとして確認する。
例：- 3 大きい⇒3 小さい，- 3 小さい⇒3 大きい
- ・同じカードを使用して，「神経衰弱」やカードを追加して「ババ抜き」などで活用してもよい。

4 学習の効果

- ・カード取りゲームの形をとることで，数学に苦手意識をもっている生徒も興味をもって取り組むことができる。
- ・加減の計算の際にも，カードを利用することで，スムーズに負の数を足したり引いたりする計算を行うことができる。



5 参考資料（カードの例）

5 kg 重い

－ 5 kg 軽い

5 m 高い

－ 5 m 低い

5 分早い

－ 5 分遅い

5 点上がる

－ 5 点下がる

5 本余る

－ 5 本足りない

5 m 短い

－ 5 m 長い

5 本少ない

－ 5 本多い

5 小さい

－ 5 大きい

5 km 遠い

－ 5 km 近い

5 円高い

－ 5 円安い